

無痛分娩(和痛分娩)について

当院の和痛分娩

無痛分娩とは、「硬膜外麻酔」を使用して、出産に伴う陣痛をやわらげる出産方法です。

当院は、すべての痛みを取り除く「完全無痛分娩」ではなく、痛みをやわらげながら自然に、妊婦さん自身の感覚を残し、いきむタイミングを感じながら分娩を進めていく「**和痛分娩**」を行います。

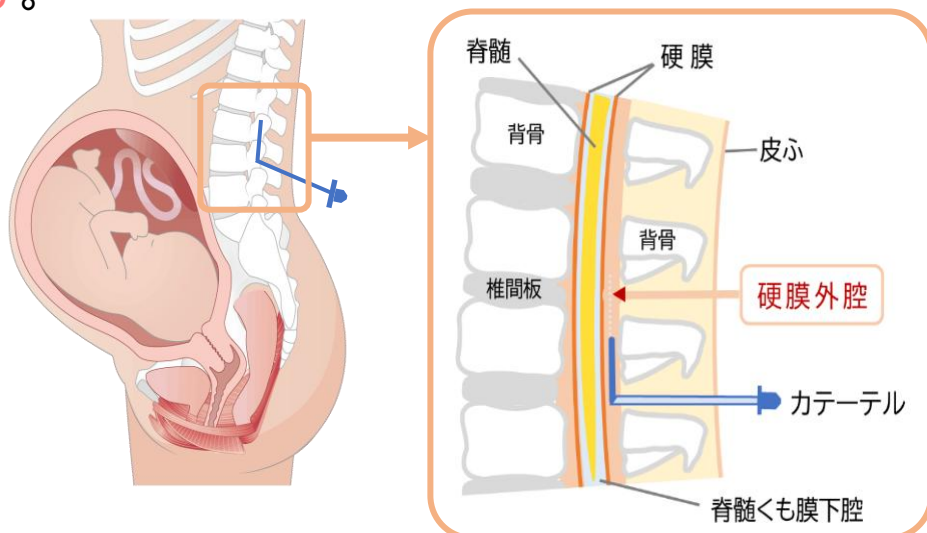
当院の和痛分娩は、あらかじめ日にちを決めて陣痛を起こす出産「**計画分娩**」が原則となり、和痛分娩の申込みが必要になります。

また、母児の十分な管理を行うため、医師や助産師の人員配置を考慮して和痛分娩の実施は、日中にかぎらせていただきます。

※申込みされていない場合、入院後の和痛分娩への切り替えはお受けできません。

硬膜外麻酔について

背中のすき間から針を挿入し、硬膜外腔というところにカテーテル(管)を留置します。カテーテルから麻酔薬を入れて**分娩の痛みを軽減**します。



和痛分娩の**対象外**となる方

- 子宮筋腫合併妊娠、子宮筋腫核出など既往のある方
- 脊柱手術後や脊柱側湾症と診断されている方
- 局所麻酔薬のアレルギーの方
- 妊娠前BMIが30以上の方
- 患者さま本人が日本語が話せない、意思疎通ができない方
- 医師の診察により血圧が高い方、妊娠糖尿病などハイリスクと診断された方

※妊娠経過中に和痛分娩が不可能とされる場合もあります。

和痛分娩の**メリット**

- 陣痛の痛みが軽減できるため、気持ちに余裕をもてるようになります。
- 分娩時のストレスを軽減することで体力が温存でき、産後の回復が早い傾向にあります。

和痛分娩の**デメリット**

- 麻酔薬の影響で陣痛が弱くなることがあります。それによって分娩の時間が延長し、鉗子分娩や吸引分娩が増加することがあります。
- 麻酔によるリスクが生じることがあります。
- 起こりうる副作用、合併症
血圧の低下、胎児心拍数の低下、かゆみ、発熱、頭痛、排尿障害産後の痛み
- 稀な合併症
局所麻酔中毒、硬膜外血腫、硬膜外膿瘍、カテーテル残遺、高位・全脊髄くも膜下麻酔、アナフィラキシーショックなど

和痛分娩入院までのスケジュール

23週まで 外来診察時に『和痛分娩の希望(兼申込み書)』をご記入のうえお持ちください。

※希望しない方もお持ちください。

34週ころ 院長の外来診察時に和痛分娩の説明(説明書・同意書の配布)と計画分娩のおおよその日程を決めます。

なるべく、夫(パートナー)の同席をお願いします。

※同意書は入院時に忘れずにお持ちください。

※預り金100,000円をお持ちください。

※入院予定の日よりも前に陣痛が来た場合は、和痛分娩ができないことがあります。

和痛分娩の費用

当院の和痛分娩は原則、計画分娩で前日入院となるため、それに関わる入院費・その他の費用と和痛分娩費用55,000円(機材費・薬剤費込み)を含め、100,000円が通常の分娩費用に追加されます。(預り金として34～36週にいただきます。退院のご精算で余剰金が出た場合はご返金いたします。)

また、分娩遷延により入院延長や追加処置を要した場合にも追加費用が発生する可能性があります。

なお、分娩の満足度に関わらず、費用は発生します。ご了承ください。

以下にあげる場合も、和痛分娩の費用は発生します。

- ・和痛分娩を実施したが分娩に至らず、医師の判断により自然分娩や帝王切開で分娩となった場合。
- ・計画和痛分娩を実施したが、分娩に至らず一時退院となった場合。



分娩方法については、母子の安全を最優先に判断します。

